

第7章 接道部調査

7-1 調査方法

接道部は道路に接する敷地部分を指し、接道部の緑化状況がみどり豊かな景観の形成に影響することから、区内全域の道路における接道部を現地調査する。ただし、自動車専用道、未供用の道路及び団地内通路は調査対象外とした。道路の種別と延長は表 7-1 のとおりである。

表 7-1 道路の種別と延長

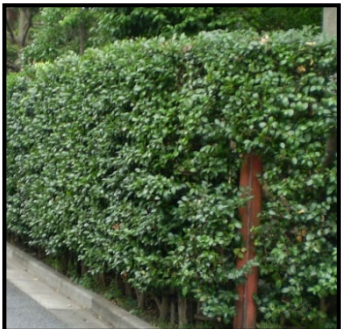


道路種別	国道	都道	区道	私道
延長	4,327m	56,678m	676,996m	305,200m
総延長	1,043,201m			

令和4年度土木施設管理数値（令和3年4月1日現在）

接道部の状況は、(1) 現在緑化が行われているところ（以下「緑化有り」と記す。）、(2) 将来的に緑化が可能なところ（以下「緑化余力有り」と記す。）、(3) 将来的にも緑化の可能性が低いところ（以下「緑化余力無し」と記す。）の3項目に大分類を行い、表 7-2 の接道部の種類に基づいてさらに区分した。

なお、現地調査において判定が困難なものは、緑化の可能性の有無を判断基準とし、対象の土地利用等の状況を考慮して判定した。

表 7-2 接道部の種類

(1) 緑化有り	(2) 緑化余力有り	(3) 緑化余力無し
1) 生垣 2) 植込・植樹帯 3) 緑化フェンス 4) その他の緑化	5) ブロック塀 6) 万年塀 7) フェンス 8) その他の塀 9) その他	
例) 	例) 	例) 

7-2 地域別の接道部状況

接道部の状況を地域別にまとめた結果を表 7-3、図 7-1 に示す。

接道部総延長は 1,989,240m であり、生垣や植込等に緑化されている「緑化有り」の接道部は 451,096m (22.68%) であった。緑化可能な接道部にある空地のブロック塀等、「緑化余力有り」の接道部は 500,657m (25.17%)、駐車場等の出入り口や道路境界に接近して建物があるなどの「緑化余力無し」の接道部が 1,037,487m (52.15%) であった。

地域別の接道部状況を見ると、「緑化有り」の割合が最も高いのは高井戸地域で 25.88%、次いで井草地域が 25.36%、阿佐谷地域で 22.97% であった。高井戸地域や井草地域は、ゆとりのある住宅が多く、敷地的にも余地があることで接道部が緑化されやすく、「緑化有り」の割合が高くなっている。

一方、「緑化余力無し」の割合が最も高いのは、高円寺地域で 58.27%、次いで方南・和泉地域が 53.37%、西荻地域が 53.06% であった。高円寺地域、方南・和泉地域は、区の東側で都心寄りに位置し、環七通り沿いのエリアであるため商業系の土地利用が多く、比較的敷地に余裕がないため接道部が緑化されにくく、「緑化余力無し」の割合が高くなっている。

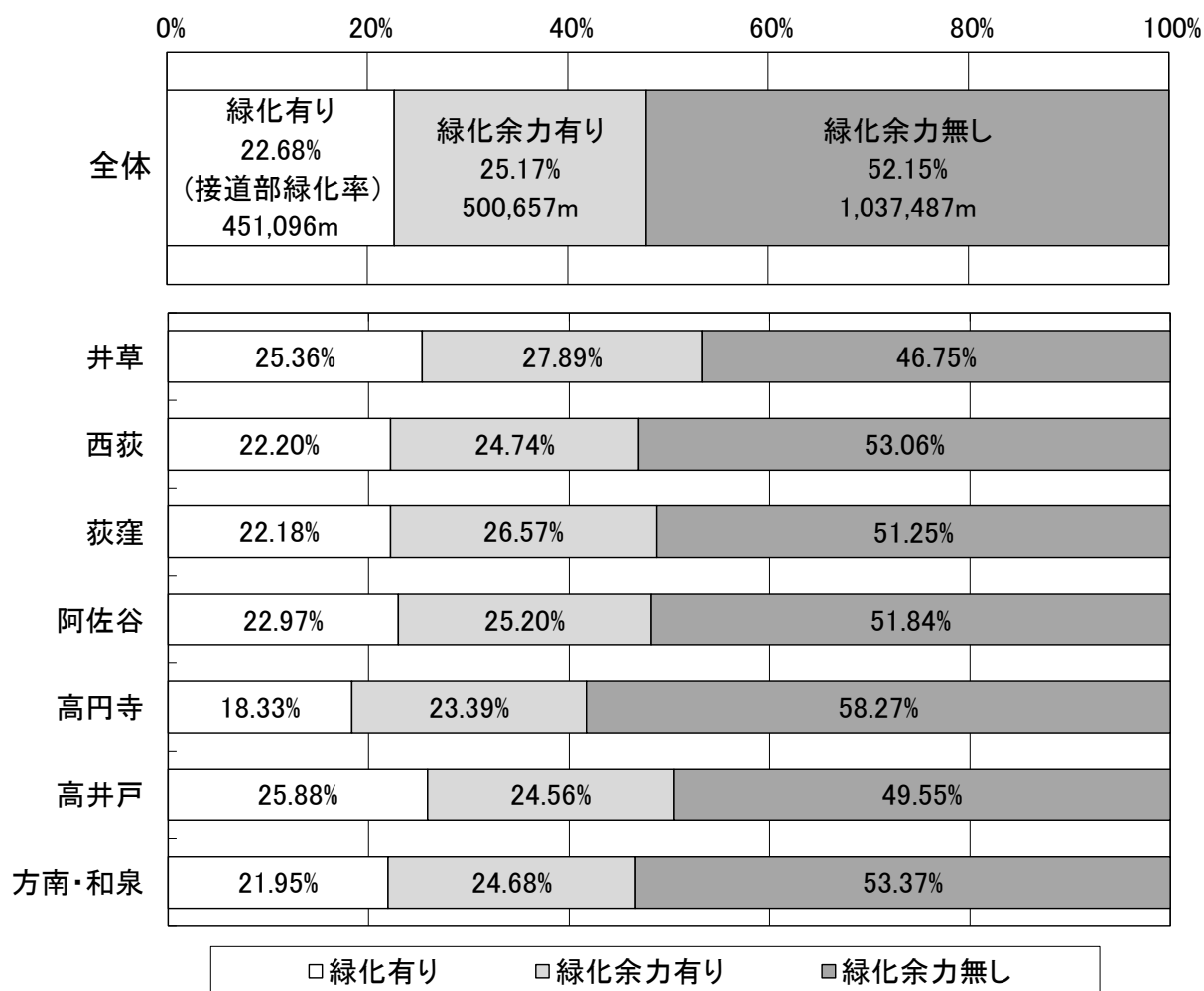
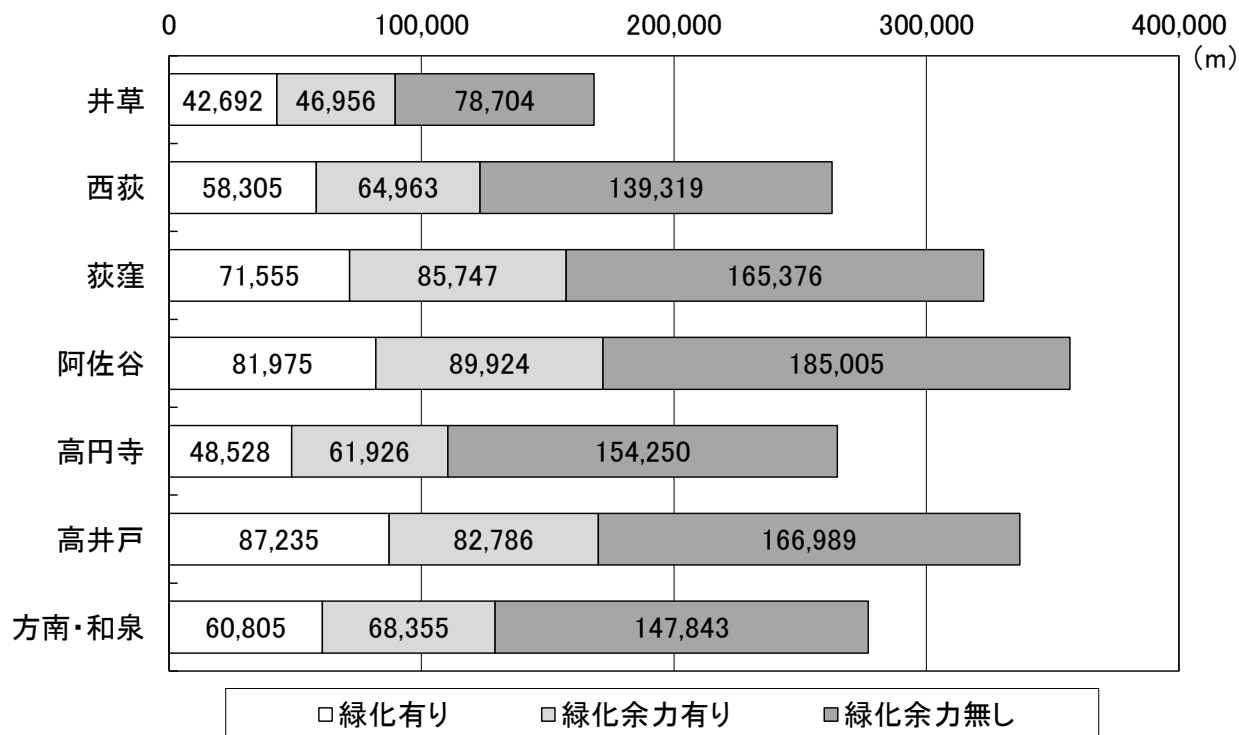
表 7-3 接道部の状況

上段：延長 (m)、下段：割合 (%)

地域	接道延長	緑化有り					小計	緑化余力有り					緑化余力無し
		生垣	植込・植樹帯	緑化フェンス	その他の緑化	ブロック塀		万年塀	フェンス	その他の塀	その他		
井草	168,353	7,221	25,594	919	8,958	42,692	15,439	1,062	18,656	7,540	4,259	46,956	78,704
	100.00	4.29	15.20	0.55	5.32	25.36	9.17	0.63	11.08	4.48	2.53	27.89	46.75
西荻	262,587	11,065	36,017	1,754	9,469	58,305	25,546	2,835	20,193	11,373	5,015	64,963	139,319
	100.00	4.21	13.72	0.67	3.61	22.20	9.73	1.08	7.69	4.33	1.91	24.74	53.06
荻窪	322,679	16,054	44,572	2,277	8,653	71,555	30,713	3,287	28,210	15,565	7,972	85,747	165,376
	100.00	4.98	13.81	0.71	2.68	22.18	9.52	1.02	8.74	4.82	2.47	26.57	51.25
阿佐谷	356,904	15,398	46,848	2,656	17,073	81,975	34,028	3,871	26,650	15,925	9,451	89,924	185,005
	100.00	4.31	13.13	0.74	4.78	22.97	9.53	1.08	7.47	4.46	2.65	25.20	51.84
高円寺	264,705	7,764	33,597	1,343	5,824	48,528	24,285	3,016	19,482	7,832	7,311	61,926	154,250
	100.00	2.93	12.69	0.51	2.20	18.33	9.17	1.14	7.36	2.96	2.76	23.39	58.27
高井戸	337,010	17,587	49,323	2,182	18,143	87,235	28,372	3,718	27,112	15,889	7,695	82,786	166,989
	100.00	5.22	14.64	0.65	5.38	25.88	8.42	1.10	8.04	4.71	2.28	24.56	49.55
方南・和泉	277,003	11,442	35,769	1,322	12,272	60,805	24,860	3,158	23,160	11,376	5,800	68,355	147,843
	100.00	4.13	12.91	0.48	4.43	21.95	8.97	1.14	8.36	4.11	2.09	24.68	53.37
区全体	1,989,240	86,530	271,720	12,453	80,393	451,096	183,245	20,947	163,463	85,499	47,503	500,657	1,037,487
	100.00	4.35	13.66	0.63	4.04	22.68	9.21	1.05	8.22	4.30	2.39	25.17	52.15

※接道部の延長は交差点の部分等を含まないため、道路延長の2倍とは一致しない。

※表中では、計算の元となる数値を延長合計は小数点以下、割合は小数点第3位以下も入れ計算していることから、表に記載されている数値による計算結果と異なる場合がある。



※構成比は少数第3位を四捨五入しているため、合計しても100とならない場合がある。

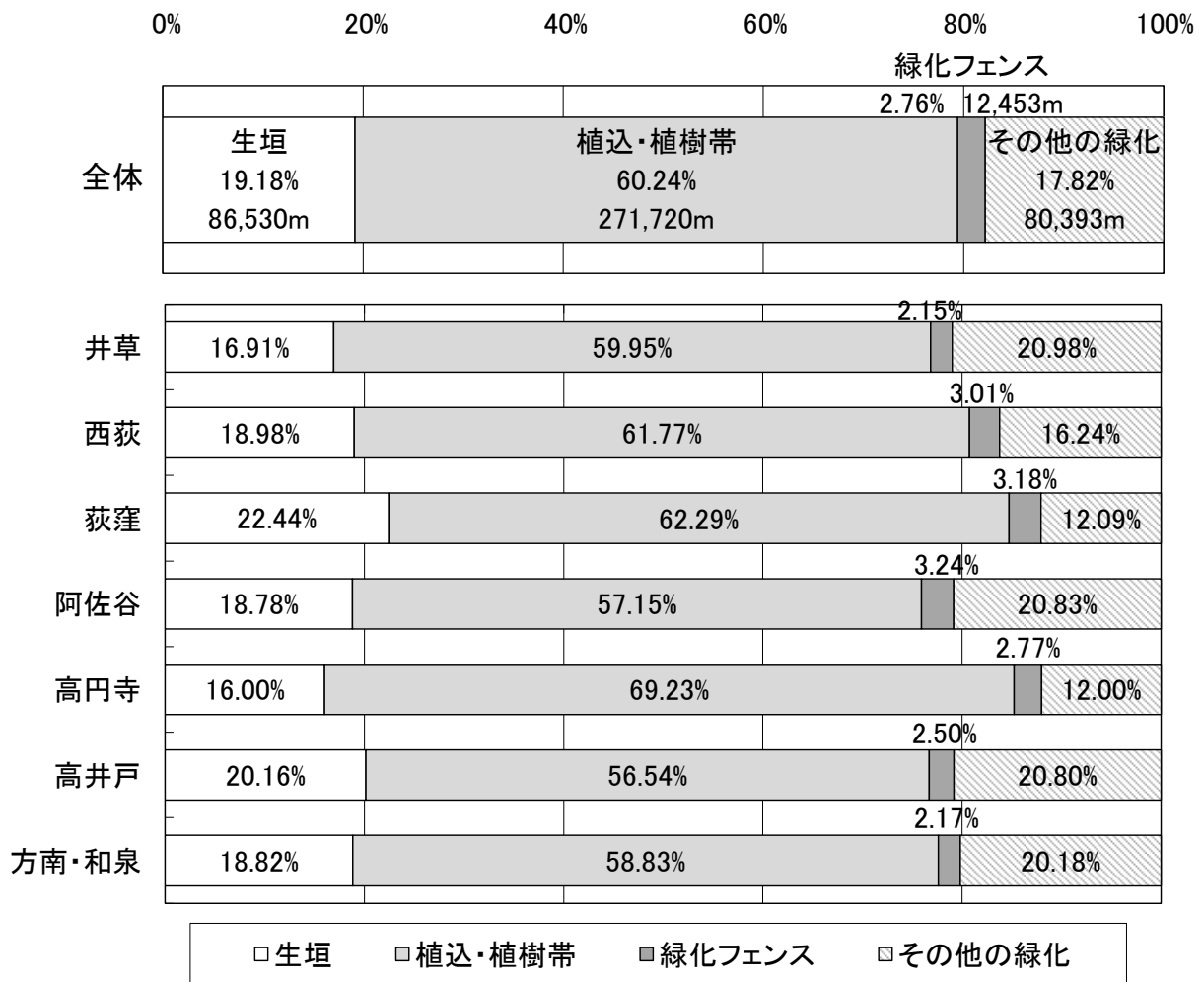
図 7-1 地域別の接道部状況

「緑化有り」であった接道部の状況を図 7-2 に示す。

「緑化有り」の緑化形態では、植込・植樹帯が緑化有り延長の 60.24% (271,720m) と最も大きく、次いで生垣が 19.18% (86,530m)、その他の緑化 17.82% (80,393m)、緑化フェンス 2.76% (12,453m) であった。

地域別の緑化有りの形態を見ると、生垣の割合が最も高いのは荻窪地域の 22.44%、植込・植樹帯の割合が最も高いのは高円寺地域の 69.23%、緑化フェンスの割合が最も高いのは阿佐谷地域の 3.24%、その他の緑化の割合が最も高いのは井草地域の 20.98% であった。

【緑化有り (451,096m)】



※構成比は少数第3位を四捨五入しているため、合計しても100とならない場合がある。

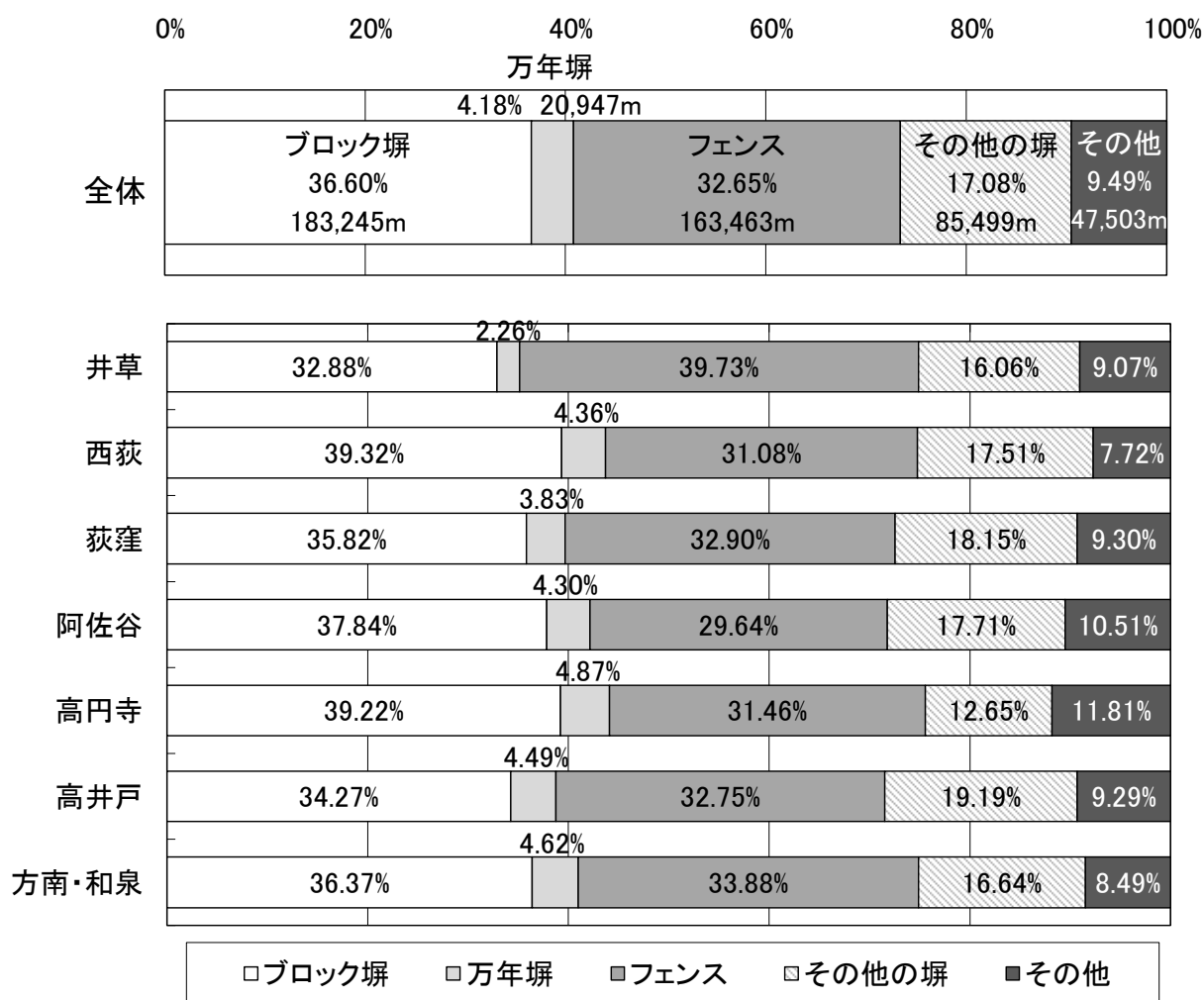
図 7-2 地域別の緑化有りの形態

「緑化余力有り」の地域別状況を図 7-3 に示す。

「緑化余力有り」では、ブロック塀が最も多く 36.60% (183,245m)、次いでフェンスが 32.65% (163,463m)、その他の塀が 17.08% (85,499m) であった。

地域別の緑化余力有りの形態を見ると、ブロック塀の割合が最も高いのは、西荻地域の 39.32%、万年塀の割合が最も高いのは高円寺地域の 4.87%、フェンスの割合が最も高いのは井草地域の 39.73%、であった。

【緑化余力有り (500,657m)】



※構成比は少数第3位を四捨五入しているため、合計しても100とならない場合がある。

図 7-3 地域別の緑化余力有りの形態

7-3 緑視率調査路線の接道部状況

第9章緑視率調査における調査路線での接道部状況を表7-4、図7-4に示す。調査路線は表7-5のとおりで、第9章で詳細を説明する。

平均緑視率が42.72%と高い路線3では、緑化有りの割合が47.13%と高くなっている。一方、平均緑視率が5.55%と低い路線2では、緑化有りが7.29%と非常に低く、緑化余力無しが89.32%と非常に高くなっている。

このように、接道部の状況が緑視率調査路線の平均緑視率に反映される結果となっている。

表7-4 緑視率調査路線の接道部状況

上段：延長(m)、下段：割合(%)

路線番号	接道延長	緑化有り					緑化余力有り						緑化余力無し
		生垣	植込・植樹帯	緑化フェンス	その他の緑化	小計	ブロック塀	万年塀	フェンス	その他の塀	その他	小計	
路線1	1,361.99	30.58	336.68	19.33	8.56	395.14	94.48	0.00	45.82	129.84	46.08	316.22	650.63
	100.00	2.25	24.72	1.42	0.63	29.01	6.94	0.00	3.36	9.53	3.38	23.22	47.77
路線2	1,194.81	5.79	44.26	0.00	37.00	87.05	0.00	0.00	32.94	0.00	7.61	40.55	1,067.21
	100.00	0.48	3.70	0.00	3.10	7.29	0.00	0.00	2.76	0.00	0.64	3.39	89.32
路線3	461.19	22.64	194.71	0.00	0.00	217.35	48.76	15.13	76.56	24.92	14.60	179.97	63.87
	100.00	4.91	42.22	0.00	0.00	47.13	10.57	3.28	16.60	5.40	3.17	39.02	13.85

※表中の合計、割合等は、計算の元となる数値を小数点第3位以下も入れ計算していることから、表に記載されている数値による計算結果と異なる場合がある。

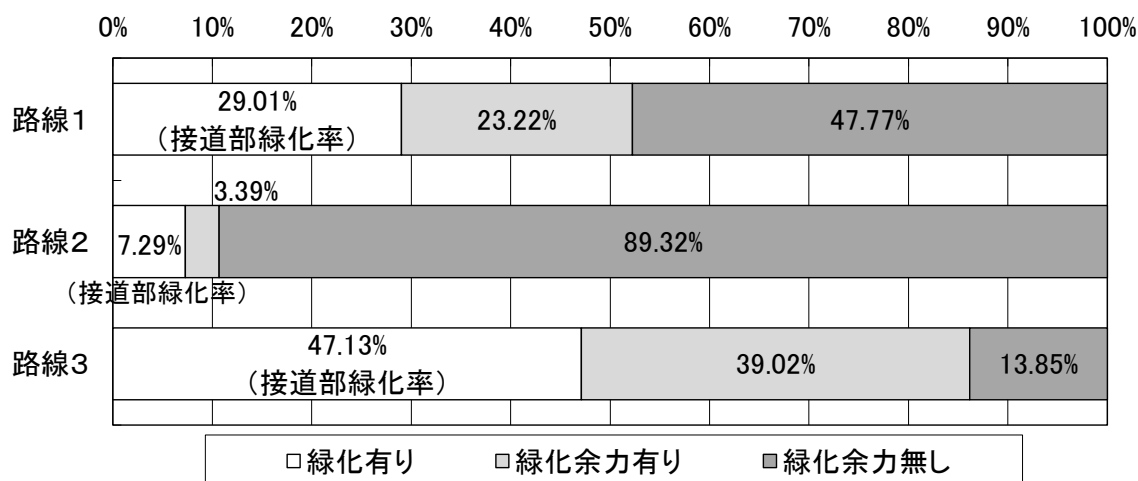


図7-4 緑視率調査路線の接道部状況

表7-5 路線別緑視率 ※第9章表9-3に後掲

路線番号	路線	平均緑視率 (%)
路線1	荻窪二・三・四丁目(荻外荘通り)	18.72
路線2	上井草一丁目、下井草四・五丁目(商店街)	5.55
路線3	下高井戸三丁目(神田川河川遊歩道)	42.72

7-4 接道部状況の推移

接道部状況の推移を見ると、「緑化有り」が平成29年度から25,248m減少、「緑化余力有り」が11,877m減少であった。一方、「緑化余力無し」は、90,565mの増加であった。

「緑化有り」の減少要因としては、比較的規模の大きな住宅等が複数の敷地に分割され建て替わること、一戸当たりの接道部が小さくなる場所が多い。一戸当たりに必要な駐車スペースや出入口幅は一定であることから、接道部が小さい住宅が増えることで「緑化有り」が減少し「緑化余力無し」が増加すると考えられる。

表 7-6 接道部状況の推移

単位：m

種別	平成29年度	令和4年度	増減
緑化有り	476,344	451,096	▲25,248
接道部緑化率	24.61%	22.68%	▲1.93%
緑化余力有り	512,534	500,657	▲11,877
緑化余力無し	946,922	1,037,487	90,565
合計	1,935,800	1,989,240	53,440

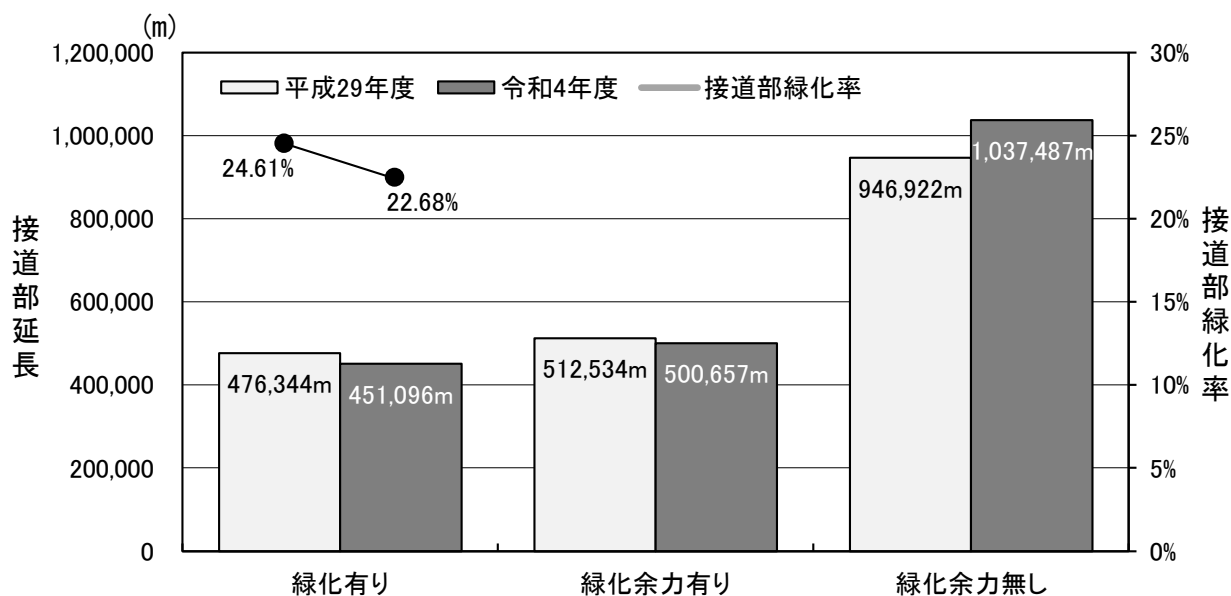


図 7-5 接道部状況の推移

区全体の生垣の箇所数及び延長は、表 7-7 に示すとおり、平成 29 年度から増加している。

生垣の樹種別の状況を見ると、カナメモチが最も多く、次いで複数の樹種で構成される混植、カイツカイブキが続く。

生垣の樹種について平成 29 年度調査と比較すると、上位 3 番目までは変わらず、カナメモチと混植の箇所数及び延長が増加した。

表 7-7 生垣の樹種別状況の推移

順位	平成29年度				令和4年度			
	樹種	箇所	延長 (m)	延長率 (%)	樹種	箇所	延長 (m)	延長率 (%)
1	カナメモチ	1,903	22,328	27.52	カナメモチ	2,463	26,467	30.59
2	混植	907	14,540	17.92	混植	1,242	17,310	20.00
3	カイツカイブキ	601	7,242	8.92	カイツカイブキ	648	6,975	8.06
4	サワラ	518	7,174	8.84	ヒイラギモクセイ	301	4,983	5.76
5	ツゲ	395	5,207	6.42	サワラ	364	4,485	5.18
6	ヒイラギモクセイ	235	4,327	5.33	ツゲ	337	3,847	4.45
7	サザンカ	230	2,680	3.30	サザンカ	291	2,930	3.39
8	キンモクセイ	164	2,065	2.54	トキワマンサク	306	2,794	3.23
9	マサキ	120	1,969	2.43	キンモクセイ	240	2,625	3.03
10	ウバメガシ	105	1,540	1.90	マサキ	169	1,918	2.22
11	ネズミモチ	97	1,359	1.67	ウバメガシ	117	1,779	2.06
12	トキワマンサク	96	1,239	1.53	ヒバ	113	1,168	1.35
13	ドウダンツツジ	88	954	1.18	ネズミモチ	61	1,050	1.21
14	カシ類	63	797	0.98	シラカシ	76	1,026	1.19
15	ツバキ	54	665	0.82	ドウダンツツジ	90	940	1.09
16	ツツジ	53	645	0.79	イヌマキ	77	817	0.94
17	ヒイラギナンテン	50	771	0.95	コノテガシワ	76	565	0.65
18	コノテガシワ	48	472	0.58	ツバキ	52	546	0.63
19	ヒバ	37	521	0.64	ヒサカキ	28	446	0.52
20	ヒサカキ	37	483	0.60	ツツジ	32	378	0.44
—	その他	371	4,166	5.13	その他	377	3,480	4.02
—	区全体	6,172	81,143	100.00	区全体	7,460	86,530	100.00

※表中では、計算の元となる数値を延長合計は小数点以下、割合は小数点第3位以下も入れ計算していることから、表に記載されている数値による計算結果と異なる場合がある。

区全体の植込・植樹帯の箇所数及び延長は、表 7-8 に示すとおり、平成 29 年度から減少している。

植込・植樹帯の状況を見ると、混植が最も多く、次いでツツジ、カイヅカイブキが続く。

植込・植樹帯の樹種について、平成 29 年度調査と比較すると、上位 5 番目までは変わらず、混植の箇所数及び延長が増加した。

表 7-8 植込・植樹帯の樹種別状況の推移

順位	平成29年度				令和4年度			
	樹種	箇所	延長 (m)	延長率 (%)	樹種	箇所	延長 (m)	延長率 (%)
1	混植	15,661	146,685	49.08	混植	19,770	164,530	60.55
2	ツツジ	6,584	53,783	18.00	ツツジ	4,623	37,077	13.65
3	カイヅカイブキ	1,692	13,107	4.39	カイヅカイブキ	830	6,989	2.57
4	カナメモチ	1,345	11,494	3.85	カナメモチ	581	4,595	1.69
5	ツゲ	941	6,648	2.22	ツゲ	544	3,391	1.25
6	アベリア	473	3,675	1.23	ドウダンツツジ	447	3,081	1.13
7	サザンカ	416	3,195	1.07	アベリア	457	2,915	1.07
8	キンモクセイ	456	3,146	1.05	ヒバ	493	2,644	0.97
9	コノテガシワ	502	3,008	1.01	キンモクセイ	343	2,094	0.77
10	ドウダンツツジ	343	2,821	0.94	サザンカ	354	2,080	0.77
11	アジサイ	398	2,455	0.82	コノテガシワ	366	1,921	0.71
12	ヒバ	392	2,179	0.73	アジサイ	315	1,844	0.68
13	ナンテン	307	1,982	0.66	ササ	187	1,579	0.58
14	サワラ	271	1,770	0.59	ナンテン	304	1,541	0.57
15	カシ類	219	1,682	0.56	ツバキ	231	1,192	0.44
16	ハクチョウゲ	238	1,608	0.54	ヒサカキ	179	1,187	0.44
17	ツバキ	254	1,569	0.52	シマトネリコ	271	1,094	0.40
18	トウネズミモチ	185	1,564	0.52	花卉	197	1,011	0.37
19	ヒイラギモクセイ	117	1,353	0.45	プリペット	196	1,003	0.37
20	ゲッケイジュ	262	1,253	0.42	ホソバヒイラギナンテン	180	929	0.34
—	その他	5,403	33,879	11.34	その他	5,087	29,022	10.68
—	区全体	36,459	298,856	100.00	区全体	35,955	271,720	100.00

※表中では、計算の元となる数値を延長合計は小数点以下、割合は小数点第 3 位以下も入れ計算していることから、表に記載されている数値による計算結果と異なる場合がある。